

株式会社常陽銀行
サステナブル預金フレームワーク

2025 年 4 月 制定

目次

1.	株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する取り組み	3
(1)	株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する方針等	3
(2)	常陽銀行のマテリアリティ・KPI	3
(3)	常陽銀行のサステナブルファイナンスとその意義	4
2.	サステナブル預金フレームワーク	4
(1)	本フレームワーク策定の目的及び背景	4
(2)	本フレームワークの概要	5
(3)	本フレームワークにおける資金管理	5
(4)	レポートニング	5
3.	第三者によるレビュー	6

1. 株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する取り組み

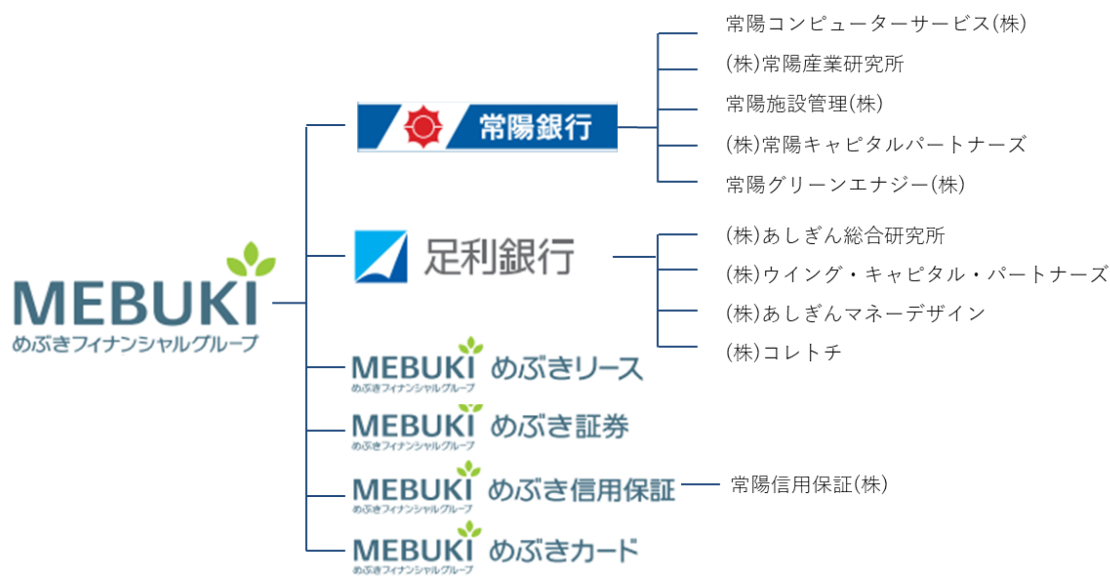
(1) 株式会社めぶきフィナンシャルグループのサステナビリティに関する方針等

株式会社めぶきフィナンシャルグループ（以下、めぶき FG）は、グループ経営理念「質の高い総合金融サービスの提供を通じ、地域とともに、ゆたかな未来を創り続けます。」に基づき、地域の課題解決をはかることを通して、持続可能な地域社会の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

めぶき FG はサステナビリティを巡る課題を重要な経営課題として認識し、地域の課題解決と持続的な成長とともに、当社グループの持続的成長と企業価値向上の好循環をはかることを目的として「グループサステナビリティ方針」を制定し、積極的な取り組みを行っています。

めぶき F Gの子銀行である株式会社常陽銀行（以下、常陽銀行）は、「健全、協創、地域と共に」という経営理念のもと、堅実な営業、健全な経営を行い、お客さま・地域・株主の方々と共に価値ある事業を創造していくことにより、地域社会・地域経済の発展に貢献してまいります。

＜めぶき FG グループ概要（2025 年 4 月 1 日現在）＞



(2) 重要課題（マテリアリティ）と KPI

めぶきFGは、「グループサステナビリティ方針」の制定に際し、地域金融グループとして、また、企業市民として、持続可能な地域社会の実現に向け最大限貢献するため、特に重点的に取り組むべき5つの重要課題（マテリアリティ）を設定しました。

＜重要課題（マテリアリティ）＞

項目
地域産業の成長支援
安心で豊かな暮らしへの貢献
脱炭素社会・環境保全への貢献
お客さまに選ばれ続けるサービスの提供
価値創造を支える経営基盤の強化

めぶきFGは、持続可能な地域社会の実現と企業価値の向上を目指し、サステナビリティに関する基本姿勢や目標を明確化するため、「サステナビリティ長期KPI」を設定しています。常陽銀行およびめぶきFGは、今後も地域金融機関として、地域の課題解決に向けた取り組みを強化し、長期KPIの達成を通じて、持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。

＜めぶきFG 長期KPI＞

項目	内容
サステナブルファイナンス(2021年度～2030年度累計)	3兆円 (うち環境分野2兆円)
CO2排出量 (Scope1&2) 削減目標(2030年度)	ネット・ゼロ
代理以上に占める女性比率 (2027年度末時点)	27%以上

(3) 常陽銀行のサステナブルファイナンスとその意義

常陽銀行およびめぶきFGでは、サステナブルファイナンスについて、関連する外部基準（グリーンローン原則、グリーンボンド原則、およびソーシャルボンド原則など）を参考に、「環境・社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現を目指すお客さまの活動を支援するファイナンス」を対象範囲としています。

2021年度～2030年度までにサステナブルファイナンス3兆円、うち環境分野のファイナンス2兆円の実行目標を設定しており、目標達成に向けて取り組んでいます。2021年度～2023年度の累計実績は、1兆1,574億円、うち環境分野7,569億円となりました。

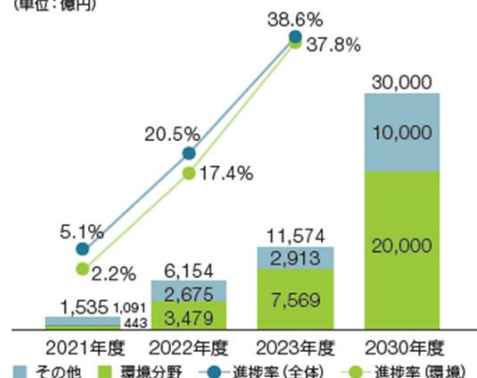
今後も、サステナブルファイナンスの提供により、環境・社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現を目指すお客さまの活動を支援していきます。

「サステナブルファイナンス」の定義

関連する外部基準（グリーンローン原則、グリーンボンド原則、ソーシャルボンド原則など）を参考に、「環境・社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現を目指すお客さまの活動を支援するファイナンス」

環境分野	再生可能エネルギー事業など気候変動の適応・緩和に資する事業 再エネ・省エネ・カーボンニュートラルに資する設備投資 等
社会分野	地域活性化、地方創生に資する事業 スタートアップ企業の育成、雇用の創出等に資する事業 等

サステナブルファイナンス実行額推移
(単位：億円)



2. サステナブル預金フレームワーク

(1) 本フレームワーク策定の目的及び背景

常陽銀行は、本フレームワークに基づくサステナブル預金（以下、本預金）を原資として、特に環境分野に着目し、サステナビリティへの取り組みを強化します。本預金により、持続可能な社会の実現を目指すお客さまへ、預金を通じたESGへの取り組み機会を提供いたします。本預金によって調達した資金を環境改善事業に還流することで、サステナビリティの実現に向けた取り組みが循環する地域社会の実現を目指してまいります。

(2) 本フレームワークの概要

① 本預金の資金使途

本預金で調達した資金について、下表に該当するもののうち、常陽銀行が選定するファイナンス（以下、適格ファイナンス）に充当します。

i	グリーンプロジェクトに対する過去 5 年以内に実行されたファイナンス。グリーンプロジェクトとは、環境課題の解決に貢献する事業を指します。充当するグリーンプロジェクトの選定にあたって、常陽銀行ストラクチャードファイナンス部が取扱う太陽光発電に関する事業への貸出金を対象とします。
ii	常陽銀行ストラクチャードファイナンス部が実行する、第三者機関から国際原則等に関する評価又は第三者意見を取得しているグリーンローン、サステナビリティ・リンク・ローン。

本預金の通貨は円または米ドルとします。また、本預金の預入期間はサステナブルファイナンスの多くが中長期的な成果を求める性格であることを鑑み、6 か月または 1 年ものとします。

② 選定プロセス

常陽銀行営業企画部および市場国際部は、本フレームワークに適合する投融資を選定し、その適合の確認を行います。充当にあたっては、営業企画部長および市場国際部長の承認をもって決定します。

③ 外部評価

常陽銀行は、本フレームワークに関して、国際原則等に基づく確認に関する第三者意見を日本格付研究所から取得しています。

(3) 本フレームワークにおける資金管理

常陽銀行は、本預金残高と本フレームワークの対象とする投融資残高（本投融資残高）を確認し、本投融資残高が本預金残高を上回る状態を維持するように管理を行います。本預金残高が本投融資残高を上回った場合、その超過分は現金又は現金同等物で管理を行い、可能な限り速やかに投融資先に充当することでこの超過分を解消するように努めます。

(4) レポーティング

常陽銀行は、本預金残高が存在する限りにおいて、下記項目を年 1 回 WEB サイトにて開示します。

- 本預金の預入残高
- 適格ファイナンスの分類別充当金額
- 本預金の預入残高が適格ファイナンスへの充当総額を超過していないこと
- 適格ファイナンス毎のインパクトによる貢献が期待される SDGs に係る 17 のゴール（一部ファイナンスに限る）
- 環境改善効果を示す指標として、送電系統で供給される再生可能エネルギー・プラントの生産能力（見込）（MW）
- その他、適格サステナブルファイナンス分類毎に発現が期待されるインパクトの定量的な指標（分類毎に開示が必要な場合において対応する）

3. 第三者によるレビュー

常陽銀行は、本フレームワークの対象となる投融資のポートフォリオとそれから発現するインパクトに関して、必要に応じて J C R からレビューを受け、そのレビュー結果を公表します。レビューを依頼する際には、常陽銀行営業企画部および市場国際部は JCR に対してレビューに必要な情報を提供します。同部はレビューにおいて JCR に対して提供する情報の正確性に係る専門性を担保するように努めます。

以上